

御前山 ビオトープ通信

平成15年9月21日

創刊号

編集： NPO「美しい田園21」 清野

メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：

(本号はホームページに掲載記事を再編集したものです)

目次

- 1 御前山に保護区域の構想
御前山村と国営事業所の意見交換
- 2 谷津坪沢（候補地）の現地調査

【案内図】

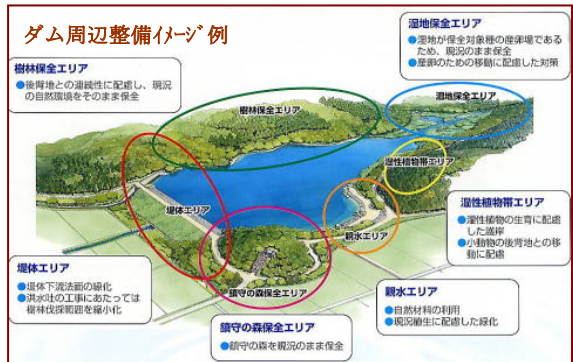


1 御前山村と国営事業所の意見交換

平成15年8月26日、御前山村役場において御前山村（N 村長、M 総務課長）と国営事業所（S 所長、S 支所長他）で御前山ダムや周辺環境にかかる意見交換が行われた。

（意見交換）

- ・地元御前山村に対して、水源地として御前山ダム建設への協力に感謝
- ・御前山周辺は従来から県立自然公園として豊かな自然環境が保持
- ・ダム建設に伴う詳細な環境調査によって、さらにその価値が高く評価
- ・しかし近年、希少な動植物が外部者によって乱獲されたり、廃棄物の不法投棄などが問題
- ・また、農村内部からも過疎化、高齢化による労力不足から山林、水路、水田等の適正管理が困難になったり農薬の大量使用など過度の経済行為によって自然環境に大きな影響
- ・さらにダム建設による水没地など直接生息地が失われることも避けられない状況
- ・その際、農村における自然環境は二次的な自然が太宗を占めており、人間もまた自然の一部とし自然環境に重要な役割を担っていることを直視することが重要
- ・つまり環境だけを見て環境が守られるものではない。環境を持続的に守るためにも健全な農林業の促進、地域社会の維持発展が必要。



- ・御前山村の長期的な視点としては、従来からの豊かな自然環境とダム湖など新たな水辺環境を統合して、地域の貴重な財産・資源として将来にわたり良好に保全活用することが重要
- ・ダム工事の事業主体としては、可能な限り環境に配慮して施工に当たるとともに、地域と協力して環境保護や地域活性化に取り組む
- ・また、御前山ダムは那珂川沿岸の受益12市町村の農業用水を供給するために建設される経緯から、地元だけでなく関係機関と幅広く連携することが重要

（事業所からの具体的な提案）

- ・水没地の希少動植物を恒久的に移植保全するために保護区域（ビオトープ）を造成したい
- ・単なる保全地域ではなく、地域活性化にも資するように検討
- ・またダムの周辺整備についても、可能な限り保護区域と整合するよう自然再生や生態系に配慮

・ハードのものづくりだけでなく、受益市町村や都市農村交流など地域連携や幅広い市民ネットワーク形成、あるいは住民参加など地域活性化が図られるように新たな手法を模索

(御前山村の回答)

- ・御前山村は過疎化、高齢化が進み、豊かな自然環境は貴重な資源
- ・環境保護と地域づくりを一体的に考えることに同感
- ・村としても全面的に協力したい。
- ・具体的には「谷津坪沢」あたりがどうだろうか、是非、調査し、検討頂きたい



岩場にワガコも自生する清浄な溪流

2 谷津坪沢について現地調査

御前山村から自然保護区域の候補地として提案された谷津坪沢について現地調査を行った。谷津坪沢はダム上流へ桧山川を数kmさかのぼった支流に位置する。

行き止まりの狭い沢地で、昭和40年代から長い期間耕作放棄された水田跡地。橋や道路も未整備のままで、木橋は腐って危険な状況のため途中から川沿いに徒歩で調査した。

調査概要

- ・水田跡は葦やヨシ、灌木が繁って、畦畔の確認も出来ない状況。現状でも湿地跡地が湿地として一部残っている。
- ・周辺の山間地にはかつて、カタクリ、エビネ、ギンランなどが自生していたが今は乱獲で数少なくなっている。



腐った木橋

- ・湿地性の岩場もあり、多様な自然が残存している。
- ・南北の狭い谷で一部日当たりが悪い。携帯電話は圏域外
- ・河川は極めて清浄で安定した水量がある。河川も道路も行き止まりの閉鎖環境
- ・林道沿いは造林されており、最上流は国有林となっている。
- ・地元の住民の話ではホタルも沢山いるが、マムシも多いので要注意

調査結果

- ・数十年来営農されず、農薬の影響も残っていない。水もきれいで水量も安定し、良好な自然環境が保持されていること
- ・ダムの直上流域で湛水敷と連続し、同様な生態系が残っていること
- ・周辺山間部を含めて多様な環境が保持されていること
- ・道路も行き止まりで進入規制や管理がしやすいこと
- ・以上から保存区域としては良好な環境と条件を備えていると評価できる
- ・ただし、道路、橋、水田、水利施設などの整備、復元が必要



畦畔も確認できない耕作放棄地